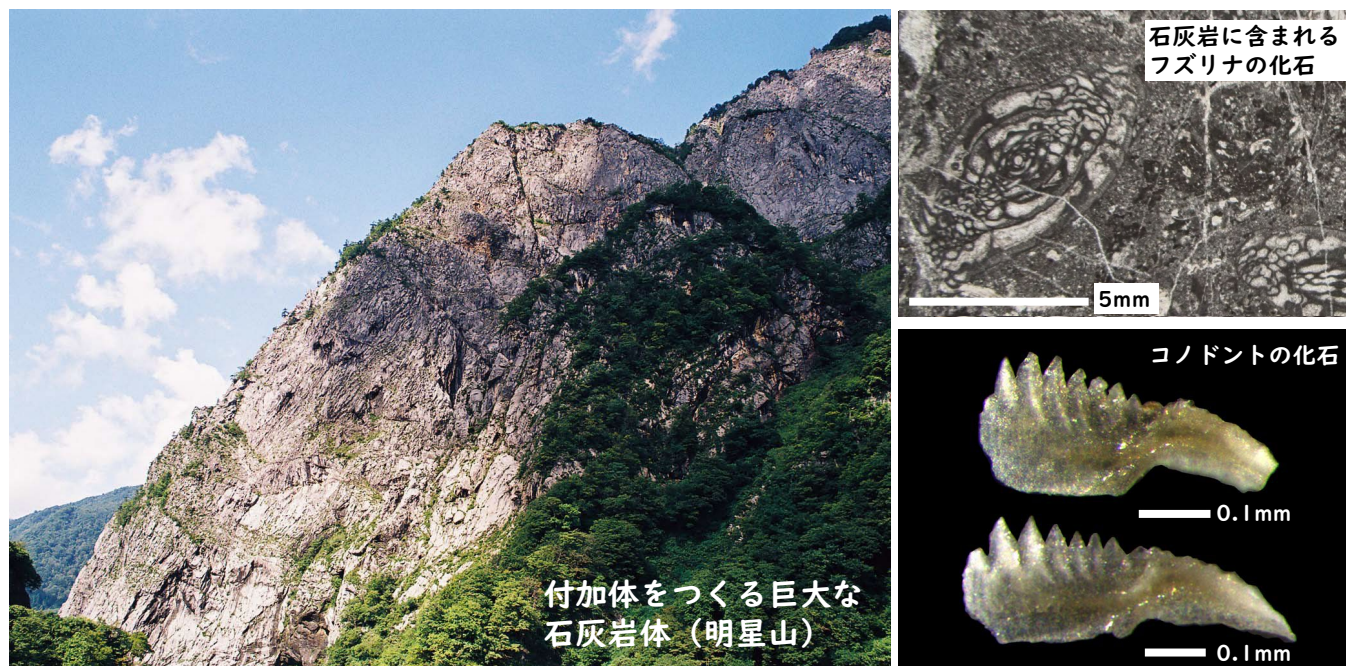


# 第135回 理学部コロキウム

## 系魚川の古生代付加体からみる 3億年前の地球

理学部 地質科学プログラム 栗原 敏之



日時：11月22日（水）16:30～17:40（紹介・質疑応答含む）

場所：理学部B棟303講義室

世界ジオパークとして知られる系魚川の地質は、日本を東西に分ける大断層である系魚川－静岡構造線の東側と西側で、全く違った姿をみせます。年代の新しい東側に対して、西側は3億年前の古い地質体でできています。西側の山塊をつくる代表的な岩石はかつての火山島のサンゴ礁でできた石灰岩で、プレート運動でアジア大陸東縁に付け加わった「付加体」の一部です。この石灰岩はセメント等の原料として系魚川の産業を支えてきたものですが、とりわけ炭酸カルシウムの純度（品位）が高いことが特徴で、それには形成した場所や当時の地球環境の変化と生物の応答が深く関わっています。

本講演では、こうした系魚川の地質と産業の関わり、付加体の地層・岩石からみえる3億年前の地球と生物について、分野外の方や学部学生を想定して分かりやすく解説します。

問い合わせ先：長束俊治 (natsuka@bio.sc.niigata-u.ac.jp)